

どんぐり 実生

〒330-0042 さいたま市浦和区木崎3-1-1

埼玉県立浦和西高内 浦和西高斜面林友の会事務局 電話 048-831-4847

メール件名は「斜面林」と記入してください。

入会の申し込み、問い合わせメール 3220028501@jcom.home.ne.jp

『実生』投稿受付 ashinagako@gmail.com

ホームページ <http://unshamenrin.wix.com/un-shamenrin>



《6月14日》

天気：曇り

参加人数：36名

活動内容 ①斜面林の草刈り
②さつまいも畑の草刈り

曇り空で湿気が多く蒸し暑い

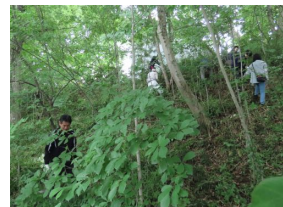


URAWANISHI.SHAMENRIN

インスタグラムQRコード

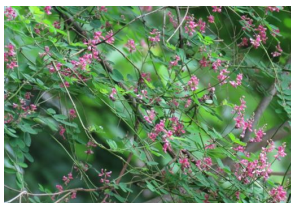
①斜面林の草刈り

いよいよ蒸し暑い季節がやってきました。この時期は暑さと湿気と蚊との戦いになります。湿気がなければ木影は気持ちいい風が吹いてホッとするのですが、梅雨の時期はそうはいきません。生物部の西高生もまさに斜面に貼り付くように登って草刈りしてくれました。蒸し暑い中を皆さん、せっせと草刈りに励んでいて本当に斜面林が好きなんですね。



②さつまいも畑の草刈り

焼きいも大会用のさつまいも畑に草が生えているといけないので草刈りに行きました。が、思ったほどではありませんでした。ここは木影がないので長時間の作業は厳しいです。短時間で出来てよかった。

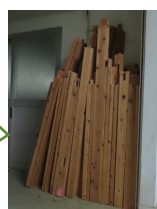


コマツナギ



ジャノヒゲ

会員の宇田川さんから
焼きいも用にお神輿の廃材の
寄付を頂きました。
地域のお祭りで活躍していましたが
担い手も減り、出番もなくなりました。
最後まで貢献してくれてありがとう



春日部高校から偵察隊?!

生方先生のお知り合いの中村先生(生物担当)が斜面林友の会の活動に参加しました。

「専門は分子生物なので植物などについては質問しないでください」前置きしていたのが面白いですね。

浦和西高の学校の敷地内の森林保全を核にして地域の方、保護者、教員、生徒たちが繋がっているという図は
とても珍しいと思います。
きっとこの繋がりが役に
立つことがあるはずです。
春日部高校の参考になりましたか?



読者投稿欄：中村さんより

毎年冬の北八ヶ岳に行った際に泊まる「黒百合ヒュッテ」のご主人が亡くなりお弔いで久しぶりに出掛けました。山小屋の名前の通り昔は近くの湿地に黒ユリが咲いていました。しかし鹿の食害で絶滅状態だったのを今のご主人が保護に努め、見られるようになりました。ただ、未公開です。特別に案内して頂き撮ったのがこの写真。



小話1：近く天狗岳2700メートルの頂上に居た時、私の携帯が鳴りました。ここでも電話が通じて実によく聞こえます。皆さんはスマホでバチバチ写真を撮っていました。

小話2：今の天皇陛下が皇太子の時代に雅子妃殿下と「黒百合ヒュッテ」にお目見えになり、今のご主人とお酒を交わしお銚子でお酒をついで頂いた経験の持ち主です。山小屋のトイレはあまりキレイではないというのが普通ですが、皇太子ご夫妻がお目見えになるということで、バイオのトイレにいち早く変えた山小屋です。雅子妃殿下に昔のままのトイレを使用して頂く訳にはいきませんからね。このことが広く山小屋にバイオトイレが普及したきっかけになったそうです。



黒百合ヒュッテHPより

「おがキンちゃんのひとりごと」

時代を切り開いた、我が尊敬する女性が二人います。一人は埼玉を代表する日本人初の女性医師（国家試験合格）の言わずと知れた荻野吟子（1851年～1913年）。もう一人は昭和初期の童謡詩人、金子みすゞ（1903～1930）です。金子みすゞは山口県の今は長門市出身の方ですが、ほとんど埋もれてしまった童謡詩人です。私も10年ほど前、当地を訪れたことがあります。立派なみすゞ記念館が建っていました。みすゞは、20歳の頃、西條八十に見出され、雑誌「童話」などに載りました。しかし、彼女の作風は、歌との相性が今一つだったせいか、戦前「童謡」の作詞家にはなれず、3年程で筆を折り、程なく睡眠薬で自死しました。本当に惜しい人を亡くしたものです。「故郷」や「焚き火」のような彼女の詩に寄せた歌があれば、もう少し、歌い継がれたのでしょうか、その後、埋もれてしまいました。

会員の皆さんには、無論知っている方もいるかと思いますが、昭和になって、彼女の「私と小鳥と鈴と」とか「こたま」が作曲され、歌われて、世に知られるようになりました。

実は荻野さんとみすゞさんは共通点があります。良き旦那に恵まれなかったことです。荻野吟子さんは最初の旦那に性病を移され、それが元で離縁し、猛勉強の末、女医の道を切り開きました。彼女の原動力は旦那の遊び事でした。「べらぼう」な話しです。

片やみすゞさんも碌でもない旦那から荻野吟子と同じ性病を移され、それが元で病に臥せりがちになり、かつ旦那からは生きる糧の「詩作」すら止められ、文字通り絶望の末、3歳になる娘を残して自死したのです。返すがえすも痛ましい話です。片やそれをバネにし、片やそれに打ちのめされてしまったのです。当時の女性が置かれていた立場は、才能ある人にとって紙一重だったのでしょうか。

金子みすゞの私の好きな詩。詩選集「雨のあと」より

母さん知らぬ草の子を、
なん千万の草の子を、
土はひとりで育てます。
草があおあお茂ったら、
土はかくれてしまうのに。

私は、素朴で、技巧を弄しない良い歌だと思います。土やお日様や青い若葉や花をこよなく愛し、素朴に、肯定的に日本の自然を歌いあげた金子みすゞは、自分の現実との絶望的な境遇を、寓意としての理想的なメルヘンに託しての詩作だったのかも知れません。

ちなみにみすゞさんの娘さんは2022年に95歳で天寿を全うしました。（小川 均）

《2025年度の浦和西高斜面林友の会作業は、基本第2土曜日9:30～11:30に行います》

8月9日（土）、9月13日（土）、10月4日（土）集合は地学教室です。

*第1土曜日です